

2020. 9. 18

ウェーブ

時評



田中 均

新たな日米首脳間の関係

たなか・ひとし 69年京大法卒。外務省経済局長、アジア大洋州局長、外務審議官を経て(株)日本総研国際戦略研究所理事長、(公財)日本国際交流センターシニア・フェロー。

古くは1980年代の中曽根康弘首相とロナルド・レーガン大統領の時代は、米ソ冷戦が厳しくな

り日本の貢献が求められ、一方で

は日米の経済摩擦が燃え盛った時期であつたが、両首脳の間には「ロ

ン・ヤス」関係として揺るぎない

日米関係の礎となつた。2000

年代には小泉純一郎首相とジョー

ジ・W・ブッシュ大統領の関係が

日米蜜月時代を作つた。9・11同

時多発テロの発生やイラク戦争と

いう日本にとつても難局にあつた

時代であり、小泉訪朝という米国が

決して歓迎しない外交を手掛けた

時代であつたが、小泉・ブッシュ

関係は盤石だつた。

そして安倍晋三首相とドナルド

・トランプ大統領の関係も日米関

係史上特筆すべき緊密な関係とな

つた。中国の急速な台頭や北朝鮮

の脅威が増した時代だけに、強い

日米関係が必要だし、難しいトラ

ンプ大統領との関係を構築した安

倍首相の労を多とすべきだろう。

こうしてみると緊密な首脳間の

関係はいずれも米国大統領が共和

党であることと、日本の首相が長

期政権を維持していたことが背景

にあつたことが分かる。一般論と

して、共和党は同盟国との関係を

重視することと知られ、また米国

の政権は通常2期8年続くので、

日本で頻繁に首相が交代すると個

人的関係は成り立たなくなつてし

まう。

11月に大統領選挙を経た日米の

首脳間の関係はどうなるのだろうか。

これは米国の選挙結果を待た

ざるを得ないが、長く米国と関わ

つた経験から言えば、首脳間の肌

合いが合うかという事だけではな

く、米国人が評価する人物像があ

ることも承知するのは大事だと思

う。政府・民間問わず、米国人

が仕事や交渉相手に求める資質は

「物事を実現(deliver)

できるかどうか」という点だ。物

事をあいまいにして受け身で対応

するとか、「阿吽(あうん)の呼

吸」といった概念は相容れない。

また、物事を実現(deliver

r)していくにあつたつての創造性

や戦略性も重んじる。外務省時代

に私が仕えた中曽根首相も小泉首

相も、米国との関係においては相

手の要求を待つて対応するのでは

なく、戦略をもって「先手必勝」

的に行動するという特色があつ

た。

中曽根内閣時代には経済摩擦を

解決していくために「市場開放」

を率先して行つたし、小泉内閣時

代にはイラク戦争に際して米国か

ら自衛隊の貢献を求められる前に

自衛隊の人道復興派遣を決めると

いった行動に出た。これは90年代

初めの第一次湾岸戦争において米

はなからうか。

日本の新政権の最優先事項はコ

ロナ感染拡大防止・終息である

が、やはり早い時期に、再選され

たトランプ大統領なのか、民主党

バイデン新大統領なのか、いずれ

かとの関係構築をスタートさせ

なければならぬ。おそらく日本

にとつて最も重要な外交課題は急

速に台頭し、かつ経済的依存関係

も深まっている中国にどう向き

合っていくかなのだろうし、この

ためにはあらゆるレベルで米国と

の協議を強化し適切なシナリオ作

りをしていく事が必要になる。首

脳間の緊密な関係作りは急務とな

る。